つくばね

～地域から世界へ、支援と協力の輪を広げよう～

No.73

発　行:令和6年11月22日
茨城県青年海外協力隊を育てる会
発行人:小川一成
編　集:広報文化委員会
事務局:つくば市高野台3－6　〒305-0074
JICA筑波センター内
TEL 029(838)1111
印　刷:合資会社おおた

“世界を変える力になる”

JICA筑波 所長　髙橋　亮

“つくばね”第73号の発刊、おめでとうございます。睦好の後任として2024年1月、JICA筑波に着任しました高橋です。在外は、パキスタン、アフガニスタン、スーダンの3か国に駐在しました。茨城県青年海外協力隊を育てる会の皆様方におかれましては、平素より多大なご支援を賜り、深く御礼を申し上げます。

今年7月末、茨城・栃木の中学・高校・特別支援学校の先生方8名と教師海外研修の目的でアフリカのウガンダを訪問しました。アフリカの真珠と呼ばれる同国への訪問は実に24年ぶり。驚いたのは、車とバイクの数の増え方でした。新しく整備された空港から中心街までの高速道路は快適でしたが、カンパラ市内に入ると大渋滞。都市化に伴う交通量増大に対応するため、JICAは市内各所で交差点の改良やフライオーバーの整備等に取組み、ウガンダの若手人材の育成にも取り組んでいました。

24年前、このような渋滞は無かったと記憶していますが、レンタカーの運転手さんに「右」「左」「まっすぐ」「We are CIA」などと冗談を言いながら、様々な現場を巡りまわった記憶はありつつも、Googleマップもスマホも無かった当時、どのように目的地に辿り着けていたのかが思い出せず、ミステリーです。

全てを紹介しきれませんが、ウガンダでは、素晴らしい出会いが沢山ありました。茨城県の関係では、鹿島出身の坂本晋太郎隊員（2022年度1次隊、体育）、牛久出身の瀬戸凌平隊員（2023年度2次隊、コミュニティ開発）、つくば出身の金井美紀隊員（2023年度4次隊、食用作物・稲作栽培）の活動現場を訪問。現場関係者との信頼関係を築きながら、自律的・精力的に活動されておられるその姿に、深い感銘を受けました。現場に“とびこみ、向きあい、寄りそう”。JICA海外協力隊ならではの貴重な経験が、日本と世界を繋ぐ懸け橋、未来に翔び立つ翼（つばさ）を着実に育んでいる様子に胸を打たれました。

“つくばね”の語源、少し調べてみました。筑波山の古名である筑波嶺（つくばね）。お正月の縁起物でもあり、おせち料理の飾り用にもなるビャクダン科の落葉低木、衝羽根（つくばね）。羽子板の羽根も（つくばね）。いろいろな意味がありました。

太古からのパワーを秘めつつ、羽根を宿して美しい弧を描きながら、茨城・日本と世界をつなぐ力となる。茨城発のJICA海外協力隊の姿を示す、素晴らしい言葉だと改めて感じました。これからも全力で応援してゆきたいと思います。

坂本晋太郎 隊員

金井美紀 隊員（左）

瀬戸凌平 隊員

隊員からの報告

任期を終え帰国された瀬谷隊員から活動報告がとどきました

2022年度7次隊／ペルー／
作業療法士／瀬谷暁子

2020年3月、JICA海外協力隊員として渡航する準備を進めていました。その頃、新型コロナウィルスの感染が世界中に拡大。私たちは派遣待機をせざるをえませんでした。いつ渡航できるのか、できないのか、誰もわからない状況の中、待機または辞退、各々決断しなければならない難しい状況を過ごしました。

そこから2年１か月を経て、私は南米ペルー首都リマへ作業療法士として派遣されました。まだ新型コロナウィルス感染症の影響が強く残っている時期。配属先の病院内だけでなく、街中の人がマスクをし、銀行やスーパーなどに入る際はワクチン接種証明書の提示が求められました。入院患者たちは病棟から外へ出られず、本来、病棟外にある作業療法室でリハビリを受けますが、当時は、私たちスタッフが病棟へ入り、食堂などを利用し作業療法を実施していました。病棟へ入る際は、医療用ガウン、キャップ、手袋、二重マスク着用が義務でした。

配属先はラテンアメリカで最も古い歴史を持つ精神科病院の一つ。精神遅滞や統合失調症、依存症などの患者320名ほどが入院、身寄りがなく、他受け入れ機関もないため、約8割は社会的入院を強いられています。私はそこでリハビリテーション科へ配属されました。

新型コロウィルスの影響で、実施されていた作業療法は非常に限られており、各患者個人に適した治療実施は難しい状況。そんな中、私は新しい作業療法を導入、継続する必要がありました。また、新規派遣だったこともあり、現地スタッフの隊員に対する理解は乏しく、行動を批判されることも多く、提案についてはまずは否定されました。

着任から9か月、ようやく患者が作業療法室へ来室できるようになり、新たな事を導入する可能性が大きく拡大。スタッフの同意が得られず実施できなかったものや、患者が抵抗を示し直ぐには導入できないものもありましたが、継続して実施することで、患者側からの「参加したい」というニーズを獲得。スタッフへも毎日繰り返し働きかけ、私の提案に関心を持って耳を傾けるようになりました。時間はかかりましたが、現場の意識が少しずつ変わっていきました。

患者の多くがここで一生を過ごす、作業療法の立案に悩みました。そこで、病院内で楽しさや喜び・満足感といった感情を持てる瞬間を増やし、「その人」の「好き」「嬉しい」を見つけていきたいと提案を進めました。

帰国から半年経過、同僚スタッフや患者さんからのメッセージが今もペルーから届きます。活動中、私の心を癒してくれたのも、患者さんたちの笑顔でした。

諦めない事の大切さ、信頼関係を築くことの難しさ、そしてそれを築けたときの強さを改めて学びました。心身ともに山あり谷あり、たくさんの支えがあって私は2年間の活動を終えることができました。そのすべてに感謝しています。

本当にありがとうございました。¡Muchísimas gracias!

コロナ禍での作業療法

外来にて女性グループとの健康体操

スタッフへの折紙教室

作業療法室での患者対応の一コマ

令和６年度１次隊県知事表敬訪問･壮行会

事務局長　小松崎　弘尤

令和６年７月24（日）（水）11時～、JICA海外協力隊１次隊５名の県知事表敬訪問を行いました。大井川知事へ表敬となりました。

初めに同行者のJICA筑波センター藤城一雄次長・茨城県青年海外協力隊を育てる会事務局長小松崎弘尤・青年海外協力隊茨城県OV会副会長大森美保の自己紹介に続き、隊員の自己紹介（出身地・任国・職種）があり、知事から各隊員に任国での活動等それぞれに質問されました。

加治直弥隊員（小学校教育・グァティマラ）野島渓隊員（PCインストラクター・エジプト）白戸和樹隊員（コミュニティ開発・ガボン共和国）石井沙知隊員（看護師・マラウィ）滑川美悠隊員（青少年活動・ミクロネシア連邦）と熱く抱負を報告、瀬谷暁子（５月帰国・ペルー共和国）隊員から帰国報告あり、県知事から茨城県国際親善大使の委嘱・記念品　贈呈が行われ、最後に任国の国旗を持ち、記念写真を撮り知事表敬訪問は終了しました。

知事を囲んで

親善大使の委嘱状を受ける加治隊員

任国の国旗を掲げて（右端は帰国隊員の瀬谷暁子さん）

記念品を受ける野島隊員

県知事表敬訪問の後、壮行会は午後4時30分からJICA筑波センターで行われました。

育てる会 理事　鶴町みち子

今回は、スタディ棟３階の講堂を会場に５名の派遣隊員の壮行会が行われました。

また、２０２２年度７次隊として、コロナ禍の中オンライン壮行会を体験し、帰国したばかりの瀬谷 暁子隊員の参加がありました。また、留守家族の参加もあり、若さがあふれていました。 隊員の派遣国になじみの深い育てる会出席者もいて、話が盛り上がっていました。

JICA筑波のホームページにPRESS RELEASEとして各隊員の【活動内容と抱負】が掲載されています。
URLは https://www.jica.go.jp/domestic/tsukuba/index.htmlのNEWS ニュース”のページの 2024.07.08 付の記事です。是非ご覧ください

恒例の「任務以外でぜひやりたいこと」インタビューに次のように答えていただきました。

加治隊員

現職教員で参加しているので任務ではないのですが学校間で連携を進めたいと考えています。インターネットで子供達どうしが対話やお互いの文化を紹介する交流を母国語か英語を通してできる機会をつくりたい。これはJICAの要請とは別の自分のボランティア的な活動です。もう一つ、登山が好きでグアテマラにはいっぱい山があるので是非登りたい。危ないところも多いので勿論ガイドを付けて。

野島隊員

エジプトは言わずと知れた歴史的な文化財などがいっぱいある国なのでピラミッドをはじめとして、博物館などで多くの勉強をしたい。
また、日本を古い国だという認識があるようなので文化交流などできたらと思っています。
更に、ピラミッド周辺で大発見が続いている早稲田大学の吉村教授と同じ大学出身なので何らかのかかわりが持てたらいいなと考えています。

白戸隊員

釣りが好きでガボンの沿岸には大きな魚がいるらしいので今まで見たことが無いような魚を釣って調理して食べたい。更に現地の漁法などを漁について行って純粋に楽しみながら体 験したい。

石井隊員

マラウイは国立公園がとても多い国なのでその公園を全部行ってみたい。国全体が国立公園のようなもので特に湖が綺麗だと聞いているのでそこに遊びに行きたい。
「目標：マラウイの国立公園を全制覇」

滑川隊員

ミクロネシアの任地には狂犬病は無いけれど野良犬が多く、街中で歩く時には追っ払うのに『石と棒を持って歩いてください』という状況らしい。その犬たち全頭を従えたい（笑）。犬をかわいがって犬さえも仲間に組み込もうと思っています。
現地では休日を過ごす余暇の選択肢が少ないらしく、『暇になるよ・・・』と言われているので何か新しいことをと考え、現地の方に教わりながらウクレレに挑戦したい。

臼井副会長の挨拶

全員で乾杯

研修員と懇談する隊員

懇談中の隊員と筆者

全員で

これまで・これからの事業について

■ これまでの事業報告　[令和6年8月～11月]

令和6年	8 月 3 日(土)	第5回 運営委員会	中止
	9 月 7 日(土)	第6回 運営委員会	JICA筑波センター
	10月 5 日(土)	第7回 運営委員会	中止
	10月23日(水) ～	10月29日(火)	
		視察の旅 ラオス 守谷市国際交流協会主催　23名	
	11月 2 日(土)	第8回 運営委員会	中止
	11月21日(日)	令和6年度 2次隊 県知事表敬訪問・壮行会	県庁・JICA筑波センター
	11月22日(日)	広報紙「つくばね」73号 発行	

■ これからの事業予定　[令和6年11月～令和7年3月]

令和6年	11月	2025年カレンダー配付	
	12月 2 日(土)	令和6年度 第2回 理事会	JICA筑波センター
	12月 7 日(土)	第9回 運営委員会	JICA筑波センター
令和7年	1 月11日(土)	第10回 運営委員会	JICA筑波センター
	1 月中旬	令和6年度 3次隊 県知事表敬訪問・壮行会	県庁・JICA筑波センター
	2 月 1 日(土)	第11回 運営委員会	JICA筑波センター
	2 月下旬	ラオスの子供たちの招聘	守谷市国際交流協会主催
	3 月 1 日(土)	第12回 運営委員会	JICA筑波センター
	3 月下旬	広報紙「つくばね」74号 発行・配布	

事務局からのお願い

今年度の会費を未納の方は
下記まで納入下さるようお願い申し上げます。
指定口座　常陽銀行研究学園都市支店
普通預金　店番104　NO 1411153
口座名　茨城県青年海外協力隊を育てる会　会長　小川　一成

事務局だより

会員状況　( ) は家族会員

区 分	令和6年3月末現在	令和6年6月末現在
個 人	65 (2)	60 (2)
団 体	18	18
計	83 (2)	78 (2)

編集後記

今回はJICA筑波センターに1月に着任された高橋所長にご挨拶代わりの寄稿をしていただきました。2ページ目にはコロナ禍で派遣まで苦労された帰国隊員の瀬谷さんにもご苦労された様子を寄稿していただきました。どちらの記事も最新の現地の状況が良く分かる内容となっています。

読まれた方には現地の様子が想像できるのではないでしょうか。

今後も現地からの報告を掲載していきたいと考えています。